

新聞に親しむ子どもたちを育てるには、どうすればよいか。

～新聞スクラップづくりを通して～

実践校第1年次 長野市立若槻小学校 豊田 義幸

1. NIEの現状

クラスの子どもたち(6学年)が最初に新聞に関わったのは、主に5年生の国語「ニュースの時間です」という単元を扱う際であった。毎朝、気になったニュースについて当番が感想を発表しあうもので、これは、継続活動として昨年度取り組んできた。もう一つは、社会科情報分野の学習の時である。新聞社を見学したりする中で「なぜ、あんなに大量の情報を集めてすばやく記事にできるのだろう」という疑問が生まれ、それを調べるために新聞社の方のお話を聞くなどして学習を深めてきた。

2. NIEで高めたい力

朝の新聞発表を通して、自分の考えを話す、そして友達の考えを聞く、といったコミュニケーション力を育てたい。

新聞スクラップづくりを通して、社会事象に対して、より広く興味関心をもつ子に育ててほしい。そして、自分と社会とのつながりに気づいてほしい。

3. 研究の概要

(1) 実践した教科 「総合的な学習」「社会科」

(2) 新聞の提供状況

2～3社の新聞を9月から4ヶ月にわたってクラスで購読させて頂いた。クラスの新聞掲示係が、ホッチキスで中央をとめ、段ボール板に新聞を綴じ込んでいった(多くの子どもたちが見ると新聞がバラバラになってしまうため)。配達された記事もすぐに切り取ってよいことになっている。2～3週間分の新聞がたまったら、みんなで見合っ、必要な記事を切り取り、各自スクラップに綴じた。

(3) 新聞を取り入れた授業をする上で特に工夫したこと

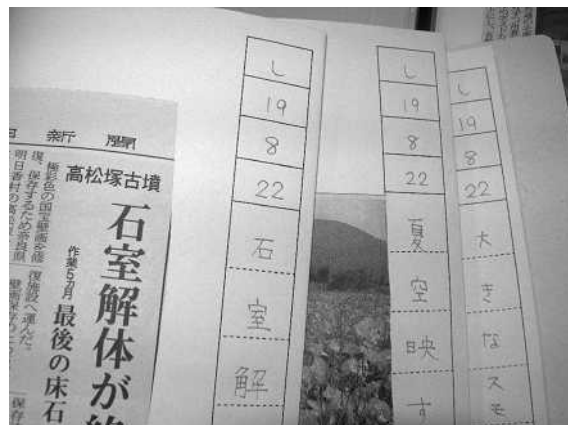
テーマがあって、それに基づいて資料を集めるために新聞を活用することが一般的であるが、新聞集めることから、自分の興味関心を知り、課題をみつけるという学習展開もあるのではないかと考え、とにかく、新聞スクラップづくりが継続して行われるよう留意した。

4. 具体的実践の紹介

(1). 新聞スクラップづくり

スクラップの形式を決める

・前述したように、去年は、朝の会で当番が二人、自分で記事を選んで紹介する時間を設けてきた。発表した記事は、画用紙に貼り付け、まとめておくようにしたが、紛失するなど整理できない子が多かった。そのため、見返して学習に活用したりすることがなかなかできなかった。発表する順番が回ってきたときだけ新聞を読むだけで読む習慣がなかなかできなかった原因はそこにもあるのではと考えた。



そこで、本年度2学期から一人一人ファイルをつくってスクラップを綴じていくようにした。

貼り付ける用紙はA3用紙。二つに折り、左側半分に記事を貼り、右側に発表する原稿を書くようにした。左ページの右側には、検索ができるように新聞名、日付、見だしを書くようにした。

これによって、次の学習効果が考えられるのではないかと考えた。

- ・自分が選んだ記事が各個人に集積される。集積させることで、振り返りができるのではないかと。
- ・自分が何に関心を持っているかが、客観的にわかるのではないかと。
- ・検索が楽になり、振り返る楽しさを知ることができるのではないかと。

新聞スクラップを読み返す～自分の興味関心を知る～

* 取り組み始めたところ子ども達は以下のような感想を持った。

- ・記事も見やすいし、感想の記事を見ながら書いて楽しかった。
- ・とてもわかりやすい。この日にどんなことがあって、どんなふうになったか、見返すことができる。
- ・見たいときにすぐに見れるからいい。
- ・ファイルに入れておけば、見返しもできるし、見れば楽しくていいと思った。
- ・一つの事件についてファイルにとじておくと次に起きた事件もわかって便利。
- ・右隅に題名を書く欄があってわかりやすい。題名を見るだけでどんな記事かわかる。たぶんあとで見返したとき、私はなにがしたかったんだろうと思うと思います。自分がどんな記事に興味があるのかわかっていい。

その後、感想の中の「たぶんあとで見返したとき、私はなにがしたかったんだろうと思うと思います」という子の発言を受けて、一人、10枚から20枚記事が集まったところで、子ども達に自分のスクラップを振り返ることになった。

*そこで子ども達は、以下のような感想を持った。

私は、地球環境に興味のある記事が多かった。これからも調べてみたい。
ぼくは、事件やスポーツ選手のことが多いので、これからも野球の記事について集めていきたい。
わたしは、テレビや芸能の記事が多かったので、芸能などに興味があると思う。
スポーツの記事が一つもなかったのもう少し集めてみたい。

のように今まで集めてきた記事の傾向を自分で知り、「もう少し調べてみたい」と意欲を持つ子。また のようにもう少し広く記事を集めてみたい、と視野を広めようとする子ども達の姿があった。自分の学びの方向性を把握するために、記録を蓄積することの大切さを感じた。

すすんでスクラップをする子どもたち

スクラップをはじめて3ヶ月。新聞記事の切り抜きを楽しむ子が増えてきた。休み時間、友だちのスクラップを読んだり、教室に置かれてある新聞に目を通す子もいる。

児童作文

「私のクラスでは、今、新聞スクラップをやっています。...ファイルにはさんでとっておくとたくさんたまっていくし、そのとき、自分が何に興味を持っていたのかもわかります。多い人は100枚ぐらいたまったそうです。私はそんなに新聞には興味はなかったけれど、そういう人を見て自分も少し集めてみたくなりました。他の人も最近どんどん新聞を集めている人ができました。これからも続けていきたいです」



友だち同士、スクラップを見合う

記事の枚数が増えてきたところで、友だちのスクラップを見合う。友だちが切り抜いてきたスクラップをお互いに見あうことで、友だちが関心を持っている事柄を知ることができた。今後、新聞スクラップをする上で参考になったり、自分自身の視野を広げるきっかけになったようだ。

(2) 新聞に投稿する

信濃毎日新聞の投稿欄に2名の子どもの文章が掲載された。これをきっかけに2名の子もだけでなく、他の子どもたちもこの投書欄に関心を持つようになってきた。また、何より新聞は読むだけでなく、自分の意見を発信できるという面に気づいてきたことが大きい。

< 投稿後の感想 >

「限界集落」について書いた子の感想

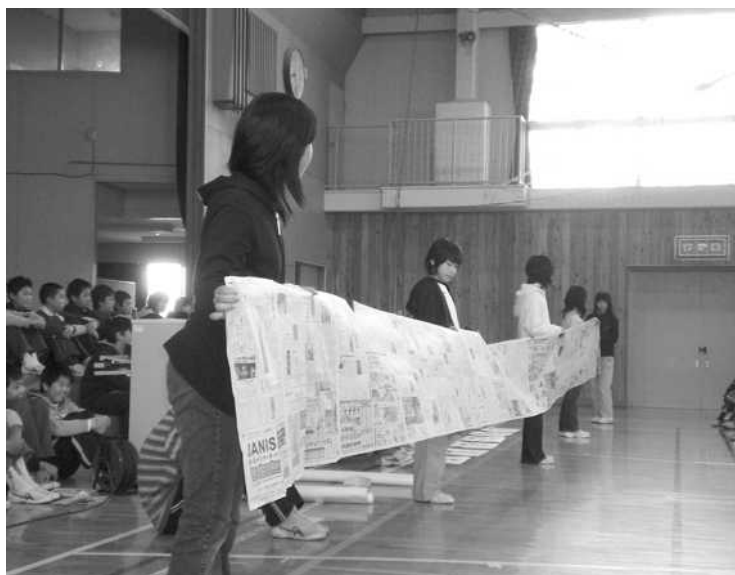
- ・この記事に気づいてくれた人がたくさんいてうれしかった。これからも記事に投稿したことについてまだまだ調べなくてはと思います。最近では「限界集落」を「再チャレンジ」と言った方がいいと言っていたけど、もっと記事について集めてみたいと思いました。

友だちの感想

- ・限界集落のことについていったい何ができるのかを考え、このような記事を見て、読んで考えている さんはすごいと思う。
- ・田畑が荒れてしまうような集落について、私も考えていきたいと思いました。私もまたそういう記事を見つけたら読んでみたいです。

投稿した子は、さらに深く調べようという意欲を持つようになった。また、記事を読んだ子ども達は、「私も考えていきたい」と自分の視野を広げようという姿が見られるようになってきた。

(3) 新聞について学んできたことを発表する。



全校集会での発表の様子

全校集会で新聞について学習してきたことを発表した。新聞の持つ情報量を知らせようと 32 ページの新聞を一枚一枚つなぎあわせて、子ども達に紹介したり、新聞スクラップをしてきた経過について説明したりしました。特に、低学年の子どもたちは、新聞をつなげると体育館の壁近くまで長くなることに驚きの声を上げていた。

(4) 新聞スクラップをしてきて (児童の感想)

- ・まえより新聞を読むようになった。
- ・新聞を読んだり、見たりすることが楽しくなった

- ・友だちとスクラップを交換して、楽しかった。
- ・友だちと新聞の話しをするようになった。
- ・家に新聞が来ると毎日一番に見るようになった。
- ・今までは、テレビ欄ぐらいしかみないけど今はいろいろな欄を見るようになった。
- ・気になったことは最後まで読んだり、調べたりするようになった。
- ・気に入った記事の見出しだけでなく、中身もみるようになった。
- ・いろいろなことが知れて考えることができるので面白い。
- ・日本だけでなく外国で起きたことなどを知ることができる。スクラップにまとめてその記事の内容について調べるようになった。
- ・新聞を読んだあとにテレビニュースを見たら、記事の内容が取り上げられていたこともあった。
- ・新聞スクラップをして思ったことは、環境問題でどうしてこうなったのかということを考えるようになった。
- ・私は妹と新聞スクラップをやっています。なのでいつも新聞が穴だらけになってしまいます。でもそれが楽しいです。
- ・漢字が読めるようになった。毎日欠かさず新聞を読むようになった。



朝登校して、すぐに新聞を読み出す子

5. 成果と課題

- (1) 継続して新聞スクラップをする子が増えた。中には9月からファイルが3冊目になる子もいた。それにつれて、家族ぐるみでスクラップをするなど、新聞を読む子が格段に多くなったことが大きな成果である。継続することの大切さを感じた。
- (2) 個々にすすめているので、当然、個人による学習が多かった。友達同士が関われる活動を時間をとっていけば、さらに学習が深まったと思う。
- (3) 全校集会での発表は、NIEの活動を全校の子どもたち、そして先生方に知らせるよい機会だったと思う。